

学校教育計画（令和6年度～令和9年度）

学校名	あおば支援学校	課程・学科 教育部門・学部	肢体不自由教育部門 知的障害教育部門
-----	---------	------------------	-----------------------

1 学校のミッション

共生社会の実現に向け、地域とともに、児童・生徒の自立と社会参加を目指して、一人ひとりの教育的ニーズに応じた教育を行う。

肢体不自由教育部門・知的障害教育部門の特別支援学校として、小学部・中学部・高等部を通した一貫した教育を行うとともに、一人ひとりの障がいの状態等に応じた就労支援の取組を充実させる。医療的ケアを必要とするなど、多様な教育的ニーズのある児童・生徒の、教育活動全般について安全に実施する校内体制を整備する。併せて、基本コンセプトである「思いを紡ぐ優しいあおば」を踏まえ、児童・生徒・保護者・地域の方々等の思いを受け止めながら、児童・生徒一人ひとりの確かな学びを支え、地域とともに学校づくりを推進し、地域に貢献する教育活動と、個々の障がい及び健康等の状況に合わせた専門性の高い指導を実践する。

また、センター的機能を発揮し、地域の各学校における支援を必要とする児童・生徒等への教育的ニーズに応じた効果的な支援を行うとともに、これらの学校と交流及び共同学習等を通した、児童・生徒の相互理解を図る。

2 学校教育目標

○自立と社会参加のために、一人ひとりの教育的ニーズに応じた教育を行い、生きる力を育てる。

○地域とともに学校づくりを推進し、地域に貢献する教育活動を創造する。

3 計画策定時点での課題

○客観的指標の活用方法の理解とそれに基づいたアセスメントを行い、授業実践に生かしていく必要がある。また、併せて指導内容を整理し、系統性をもった授業展開をしていく必要がある。

○ひとり一台端末が整備されていく中、機器の保管および使用ルールを定めていく必要がある。また、機器を使った授業づくりの実践や実践に向けた研修を取組む必要がある。

○引続き学校運営の仕組みを構築し、教員、保護者、地域と関わる人達で共通理解を図りながら進めていくことが必要である。

○地域的な課題として、特に重度・重複障がい児童・生徒の進路先や放課後等デイサービスが不足している状況がある。

○今後、教職員の異動が多くなっていく。それに伴い、学部や分掌業務の引継ぎが大切になってくる。学校運営に支障がでないようデータ及び資料を整理していく必要がある。

4 4年間の目標と主な方策

	視点	4年間の目標	目標達成に向けた主な方策
1	教育課程 学習指導	一人ひとりの確かな学びを支えるために、学校目標の実現に向けて教育課程を見直し、学習内容の系統化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の見直しを図るために、外部講師を招聘し、助言をいただきながら、研究に取り組む。 ・一人ひとりに応じたICTを活用した授業展開ができるよう研修会を行い、授業実践を共有し、構築していく。
2	(幼児・児童・) 生徒指導・支援	個別教育計画の作成に当たり、アセスメントを取り入れ、一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導・支援の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・児童・生徒のアセスメントをとり、児童生徒の実態に反映させながら、指導に取り組む。 ・意思決定力の大切さを理解し、児童生徒が選択できる量や質を高めていく。
3	進路指導・支援	地域の連携機関との連携を図りながら、児童・生徒が地域で豊かに暮らし働くことに繋がる指導・支援を展開する。	<ul style="list-style-type: none"> ・児童・生徒一人ひとりの将来の生活の充実を目指した進路指導・支援に取り組む。 ・外部機関と連携しながら、児童・生徒の情報を共有し、教員一人ひとりが支援に取り組む。
4	地域等との協働	共生社会の実現に向け、地域が積極的に学校運営に参画し、学校で、地域で「ともに学び、ともに楽しみ、ともに喜ぶ」教育活動を創造・展開する。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の資源を活用した授業を展開するとともに、教育課程での位置づけを明確にしていく。 ・スポーツフェスタ、あおばフェスタの行事の在り方を検討していく。
5	学校管理 学校運営	児童・生徒、保護者、教職員、地域と誰もが、安全・安心で使いやすく整った教育環境の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事の効率化を図るために、データと資料の整理し引継ぎができるよう取り組む。 ・学校から地域、保護者への情報発信は分かりやすい用語を使用して伝えていく。